

# 傾斜計の目的と概要

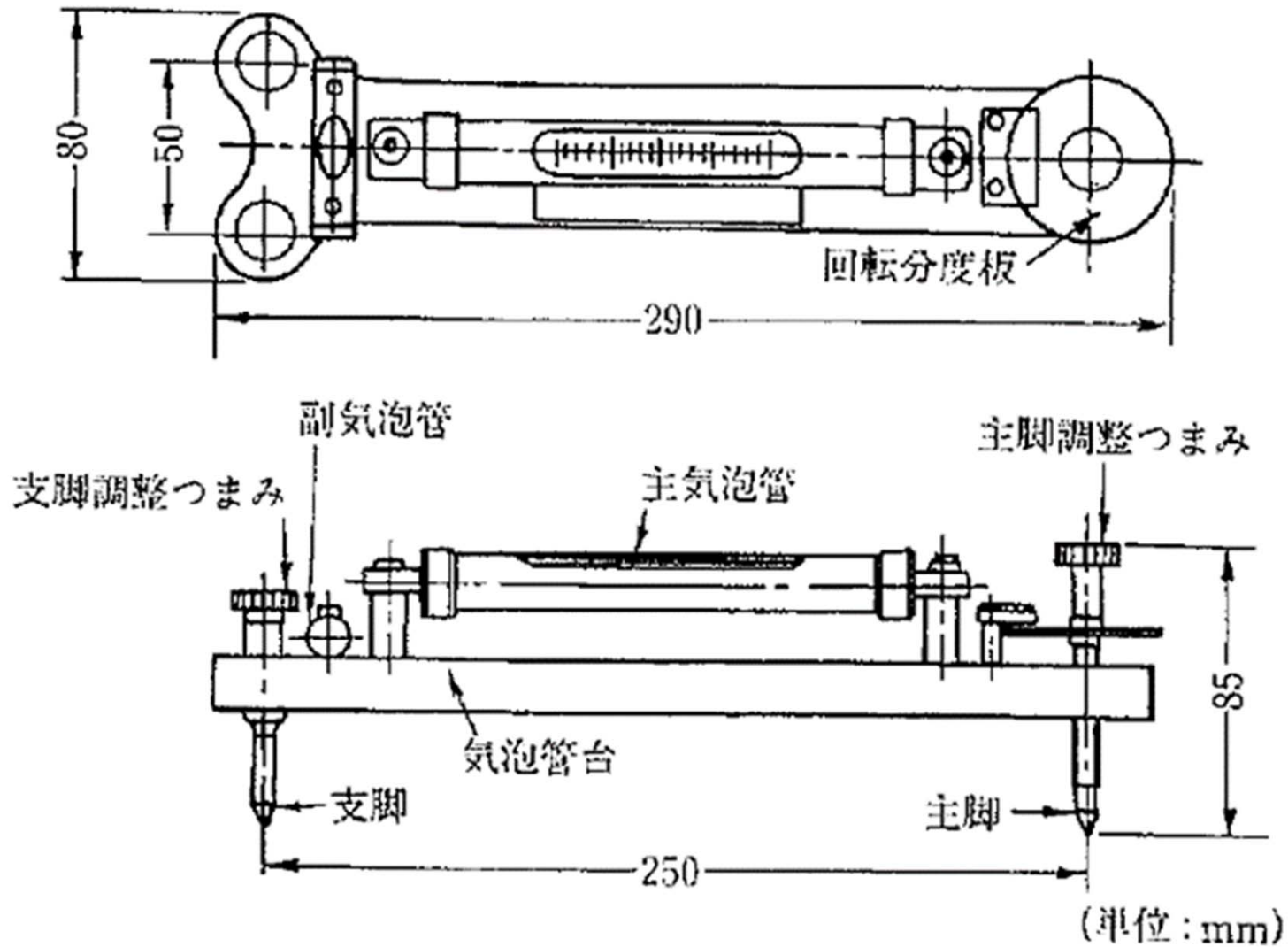
## 目的

- 地すべり地表面の微小な傾斜変動を経時的に把握する

## 概要

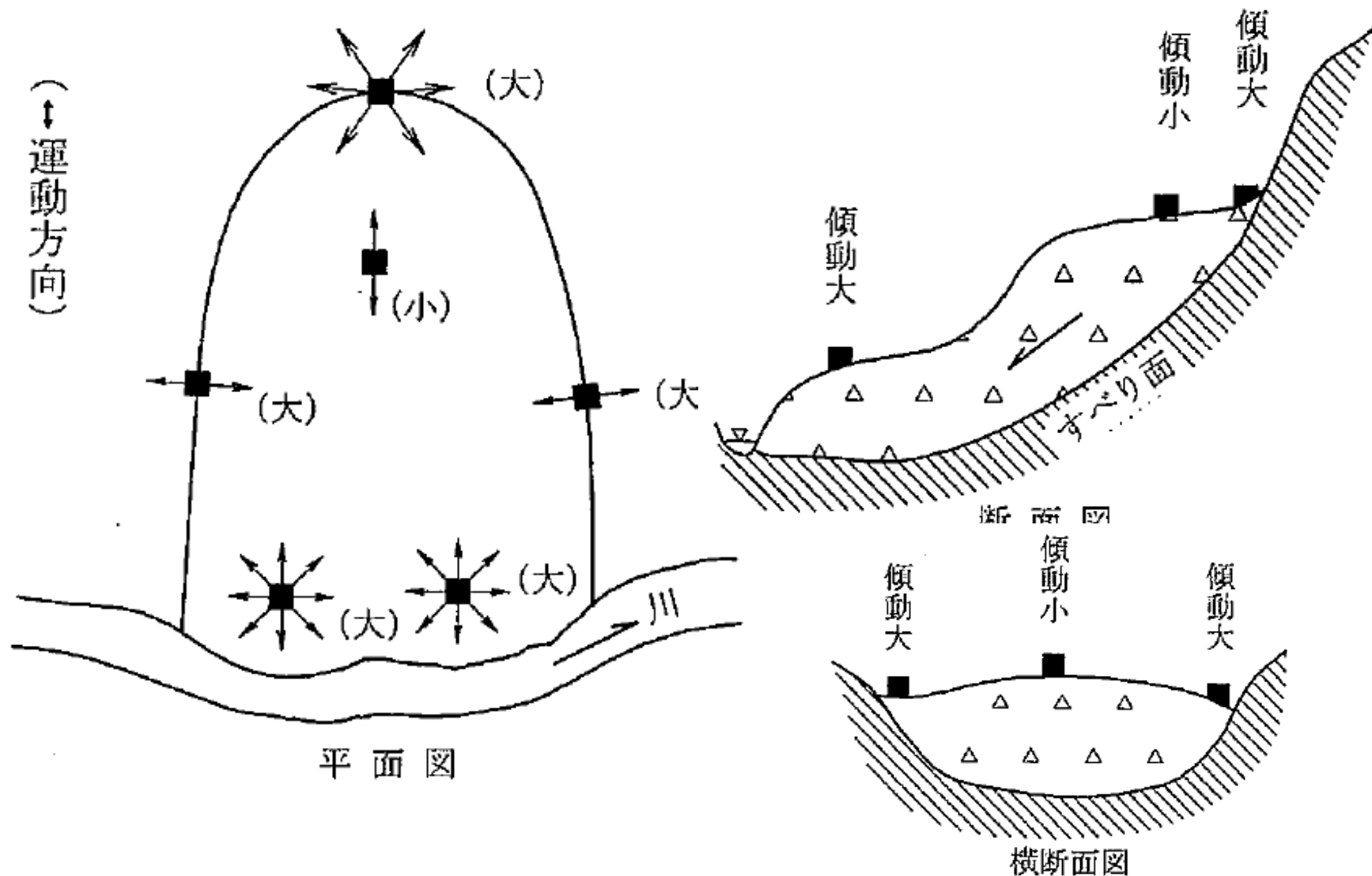
- 地盤上に2本の気泡管をたがいに直交するように固定し、それらの気泡管で計測される傾斜変動量を合成して、地表面の傾斜変動量を把握する

# 水管式地盤傾斜計 イメージ



『改訂版 現場技術者のための地質調査技術マニュアル』より引用

# 傾斜計 設置場所イメージ(地すべりの場合)



『改訂版 現場技術者のための地質調査技術マニュアル』より引用

# 傾斜計 実施上の留意事項

## 設置場所

- 観測目的によって設置場所(配置・箇所数)を選定
- 不動点にも設置(バックグラウンドの挙動を把握するため)
- 地すべり変動以外の傾斜変動が観測される恐れがある箇所は極力回避

## 測定開始時期

- 設置台が地盤に対し安定してから測定を行う(設置後10～15日程度経過後が目安)

## 保守・点検

- 測定時に気泡管の点検を行う(脚軸のずれ、副気泡管の変位、設置台周辺のクラックなど)。

## 適用限界

- 変動量の大きい地すべりの観測には向かない(早期に観測範囲を超えるため)
- 観測結果は、他の調査結果と合わせて総合的に判断

『改訂版 現場技術者のための地質調査技術マニュアル』を参考に作成